



職員半減化構想の再開及び入札改革などにより
 15年間で約100億円の財源確保
 ↓
 再び自治体経営調査などで日本一を目指す(02、04、06年3回連続で
 全国透明度ランキング1位、04年効率化・活性化度ランキング1位 日経)
 ↓
 国民健康保険料の伸び率圧縮(年収500万円以下かつ特定健診受診者
 には均等割分を5割値下げ)
 小中学校の段階的給食無償化、返子市公営塾の創設
 救急病院のいち早い誘致(119番通報から病院収容時間42.7分の短縮)
 返子市まちづくり条例の改正検討による津波対策の強化など

選挙運動費用収支報告書

選挙運動費用	69,670円
文房具代等	14,795円
食糧費等	10,841円
合計	106,686円
政治献金	0円

【政治資金のガラス張り】
 (支出)
 広告宣伝費等 69,670円
 文房具代等 14,795円
 食糧費等 10,841円
 合計106,686円
 (収入)
 政治献金 0円
 (2022年返子市議選)

政治資金の会計は、年間を通じて政治活動の費用を計上する政治団体としての会計報告と、選挙本番のみの個人候補者としての会計があるため、収支報告は二本立てになります。今回の返子市選挙管理委員会に提出した収支報告書はあくまでも選挙運動費用の収支報告書です。
 このような金額で収まったのは、①ボランティアの方々にご支援をいただいたこと、②選挙事務所を対外的に構えていないこと、③長年政治活動をしているため、街宣車スピーカー、拡声器、ワイヤレスピンマイク、たすきなどを使いまわしていること。これらの要因も大きいです。
 いずれにしても、政治活動にお金を極力かけないこと。
 それは目的ではなく、政治献金を受けず、しがらみをつくらないで政治家としての仕事をするための手段です。

POLICY
 3 市民の声をイノベーションにつなげたい!!

市議会議員の仕事には、市民からの陳情処理があります。
【事例1】(女性:M・Iさん)
 歩行器を使い、小坪から返子まで通院している年輩の女性から、経路にあたる県道311号線の急こう配で転倒しそうになるため改善してほしいとの要望(右の写真のケース)。
 ⇒県道のため、横須賀土木に動画を共有し、傾斜改善の可否の調査依頼。県から調査するとの回答。
 ⇒このケースでは道路改良よりも歩行器のタイヤが小さめであることが転倒リスクとも考えられるため、この女性の担当のケア・マネージャーさんにコンタクトして、歩行器を代替できないか相談、了承。
【事例2】(女性:K・Iさん)
 人工呼吸器を活用している方から、震災や停電時などの際に、ポータブル電源の供給体制が、返子市で整っているかという照会のご意見をいただく。
 ⇒調査したところ、返子市障害福祉課で2台のポータブル発電機(ENEPO)を所有。これに対して、人工呼吸器などの医療的ケア対象者は恒常的に10人弱/約57000人防災課では市全体として59台(原則、避難所などの開設用)を所有。
 現時点では、障害福祉課と防災課との間で、情報共有が的確できていないため、有事に備え、人命尊重の観点から縦割りの弊害を除去するよう改善要望を伝える。



【事例3】(女性:F・Tさん)
 葉山には「まけっと」という子どもの一時預かり専用の施設がある。やむを得ない事情がある場合は当日でも急遽預かってくれる。しかし、返子市はあらかじめ予約しておかないと急に当日預けることができない。葉山と同じように、やむを得ない事情があるときは当日対応も可能にしてほしい。
 ⇒返子市子育て支援課より「法律上、人員配置の関係上、保育園では当日受け入れをすることは難しい」との回答。やむを得ない事情について、基準化して急遽預かることができる弾力運用ができないか改善要望(回答待ち)。
【事例4】(男性:J・Oさん)
 小坪海浜公園または海浜公園にバスケットボールのリングの設置を(右下写真がモデル)。
 ⇒返子市緑政課より「安全面は問題ないが、計画と予算が無い」などなど、多様なご意見ご要望が寄せられます。



自治体の大小に関係なく、組織の縦割りの弊害というのが確実に存在します。その縦割りにとらわれず、点と点を線で結びつけるのが、市長や議員の重要な仕事だと受け止めています。
 また、事例1のケースで言えば、道路自体を改良するよりも、視点を変えて、歩行器や電動車椅子を、福祉機器を開発するメーカーや大学などと連携して、新たにオーダーメイドで作ってしまう。
 たんなる小間使いにとどまらず、現場の視点で、そんなイノベーションを起こせる議員や市長になるのがひとつの目標。
 イノベーションを現場から起こすために、その種となる、返子市民の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。



精神保健福祉士登録証を手に
 返子市新宿の自宅のリビングで
 令和4年4月14日

編集後記

■2020年4月、コロナ禍で在宅ワークの時間が増えたことを契機に、勉強を始めようと、精神保健福祉士の資格を取得するために、通信制の専門学校に通うことにしました。
 ■精神保健福祉士の資格にしたのは、当時、拝命していた同志社大学生命医科学部の共同研究員兼福祉施設の顧問として、アンチエイジングの観点からカウンセリングできるようにしたい。
 ■また、高齢化の進展とともに、6人に1人程度が認知症有病者とされ、任意後見を引きうけて遺言執行者の業務も、精神保健福祉士として受任できるので、取得したいと思いました。
 ■通信教育なのですが、ときには専門学校のある群馬県・高崎市までスクーリングなどで足を運び、卒業することに加え、年に一度の国家試験にパスする必要がありました。
 ■僕はアナログ世代の大学受験生だったので、勉強方法は、過去問と記憶定着のための「暗記カード」活用がメインですが、暗記カードは502枚を覚えていました。
 ■2022年の国家試験は、163満点中、101点が合格ラインでしたが、114点で一発合格
 ■実は、自動車、船舶免許以外の初の国家資格の取得になりましたが、今後は、この資格も活かして、市民のアンチエイジングやトラブルの未然防止に貢献したいです。